



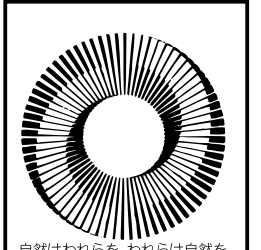
冬の拾翠亭

冬

創刊100号記念

昭和59(1984)年4月に創刊された「京都御苑ニュース」も今年で25年、ちょうど第百号を迎えました。

そこで今回は、創刊当時に環境庁京都御苑管理事務所長だった高西次男氏と、京都御苑保存会常務理事だった星野宏一氏のお二方に、その頃の思い出を語って頂くようお願いしました。自然とのふれあいなど今に続く様々な試みが始まった当時の京都御苑を思い浮かべて頂ければ幸いです。



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 木村博司
編集
(株)白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。



創刊の頃

高西次男

「御苑ニュース」が、発刊百号を迎えるとのこと、年四回の発行なので、二十五年の歳月を経たことになりました。創刊当時を知る者として、良くここまで続いてきたものと感心し、また感慨無量です。

このたび創刊の思い出を書く機会を頂きましたので、当時を振り返ってみたいと思います。

その頃、国民公園の管理予算は貧しいものでした。京都御苑の広大な芝生地を管理する費用も例外ではありません。年に何回も芝刈りをしなければなりません。それには経費がかかり過ぎます。何とか経費節約の工夫が必要でした。御苑に相

応しい丁寧な管理をする地域と、若干手を抜いても良い地域を創ることに気がつき、芝生地の管理を主体とした管理計画を作ることになりました。

当時庭園科長をしていた西塔紀夫さんは大変苦労しながら、管理計画を作りあげてくれました。本省局長の決裁をとって計画どおり仕事を進める手はずは整いましたが、気にな

るのは結果的に手抜きとなった芝生地と草地を何とか活用する方法でした。ふと、子供たち

に思う存分自然草地で遊んでもらうことを思いつきました。近くの中立売保育園、幼稚園を訪ね、園長さんの

ご意見をお聞きすると、大賛成でした。これに力を得て、市内には百カ所ほどの幼稚園、保育園がありました。この全部に毎月季節のたよりを葉書で出す事にしました。それと一



(上) 創刊号 (右) 季節のたより第一号・第三号

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわぬようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。



芝地と野草地

創刊百号を記念して

星野宏一

上質紙でカラー豊かな、最近の御苑ニュースを手にとると、今更のように、京都御苑管理事務所、京都御苑管

この広報活動の効果か、園児の苑内利用が増えてきました。地下鉄駅から近い事も幸いしたのか安全で安心な小さな自然はみんなに愛され親しまれるようになりまし

この活動が長続きしたのは、国民公園協会の関係者の努力はもとより、市民の皆さんの応援があったからだと思

原稿作成の中心となつたのは、高西所長と西塔庭園科長でした。ご自分で原稿を書くだけでなく、イラストも描いてくれました。また、当時すでに、管理事務所の自然解説事業に協力されていた京都



出水の駒札



母と子の森の文庫



季節のたより

何時まで愛され、親しまれる公園で、これからもこの活動が続くよう祈念しております。
(元京都御苑 管理事務所長)

自然観察学習会のメンバーの先生方に、無料での原稿を依頼するということも、担当してくれま

かねてから懸案の御苑ニュースの創刊は、昭和五十九年の四月で

したが、財政状況が厳しい保存会、最小限の費用に絞ることにしたものでした。経費節約のため、原稿料は無し、用紙は新聞用紙、写真はモノクロ、大きさはタブロイド版とす

原稿作成の中心となつたのは、高西所長と西塔庭園科長でした。ご自分で原稿を書くだけでなく、イラストも描いてくれました。また、当時すでに、管理事務所の自然解説事業に協力されていた京都

原稿作成の中心となつたのは、高西所長と西塔庭園科長でした。ご自分で原稿を書くだけでなく、イラストも描いてくれました。また、当時すでに、管理事務所の自然解説事業に協力されていた京都

原稿作成の中心となつたのは、高西所長と西塔庭園科長でした。ご自分で原稿を書くだけでなく、イラストも描いてくれました。また、当時すでに、管理事務所の自然解説事業に協力されていた京都

催 事 案 内

■平成21年京都御苑自然教室

一般市民を対象とした自然教室を本年度は、下記の通り予定しています。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で冬の自然を観察しましょう。

冬の自然教室 “冬の御苑にふれよう”

平成21年 1月18日(日) 9:30~12:00

主 催 環境省京都御苑管理事務所
(財)国民公園協会 京都御苑
指 導 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
内 容 冬の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所 京都御苑 中立売北休憩所前

(上京区京都御苑 中立売御門内北側)

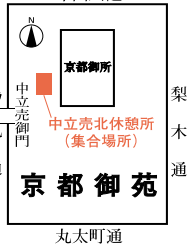
受付方法 当日、集合場所に9:30頃までにお集まり下さい。

参加費 無料

その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。

*以降も春、夏、秋、冬と四季折々、自然教室を予定いたしております。

問い合わせ 京都御苑管理事務所 TEL.075(211)6348
(財)国民公園協会 京都御苑 TEL.075(211)6364



ホソミオツネトンボ

京都御苑の冬越しをする昆虫 谷 幸樹

冬の間、昆虫はどのように生活しているのでしょうか。常に体温が維持できる人間と違い、ほとんどの昆虫は気温が5度C以下になると体温も低下し活動ができなくなり、冬は最も過酷に厳しい季節です。そこで昆虫は、冬になる前にエネルギーをたくわえ、冬にはエネルギーをあまり使わずに越冬します。

昆虫には、卵↓幼虫↓蛹↓成虫と変態する完全変態と卵↓幼虫↓成虫と変態する不完全変態があり、昆虫の種類によって決まっています。不完全変態であるトンボは京都御苑で三十九種確認されています。秋によく見られる、ナツアカネ・アキアカネは卵で越冬します。ギンヤンマ・クロスジギンヤンマ・シオカラ



オオカマキリの卵鞘

トンボは幼虫で越冬します。オニヤンマも幼虫で越冬しますが、幼虫期間が五年かかるので、オニヤンマの終齢幼虫が生息していれば、五年前にさかのぼって五年間は生息地の川などは汚染物質が流れていないことや土砂に埋もれたりしていなくて、オニヤンマが生息できる環境が維持されてい

たことを証明できるのです。このようなことからトンボは環境指標生物にもなっています。日本で成虫越冬する種は、ホソミオツネトンボ・オツネトンボ・ホソミイトトンボの三種が知られていますが、このうち京都御苑では、ホソミオツネトンボが生息していることが確認されています。トンボ池で確認し

ています。樹木の幹や枝にはイラガのマユやオオカマキリの卵鞘が見られます。オオカマキリの卵鞘には、数百の卵が含まれていて、多数の気泡に包まれていますので、外部の衝撃や暑さ寒さから守られています。カマキリはギリシヤ語では「予言者」を意味しています。それは、雪国では積雪予想ができて、雪に埋もれない高さの枝を選んで産卵すると言われています。関西では低い所に産卵している時は大雨にならないといわれています。京都御苑ではどの高さに産卵しているのか観察してみよう。御苑ニュースは、多くの市民に、御苑の空間をより楽しく、より興味をもって利用していただきたいとの願いがこめられ、それは今後も御苑からの情報発信にあたって最も重要な目的でありつづけて考えてみます。

今年が「御苑」命名130年になることを記念し、苑内の歴史施設等をたずねる「京都御苑歴史散策の集い」を企画しました。この春苑内に整備した20箇所の歴史解説板の前には、当日、NPO法人「都草」会員が立ち、付近の歴史を説明します。

会 員 募 集

財団法人国民公園協会 京都御苑
年会費
●普通会員 1,000円以上
●賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

会 員 へ の 特 典

- 1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は年会費4,000円以上の方に限ります。)
- 2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先 京都御苑
(財)国民公園協会
住所 京都市上京区京都御苑内
〒602-0881 TEL.075(211)6364

御 苑 の 花 暦

和 名	開 花 期	主に見られる場所
サザンカ	11月~2月	乾御門から今出川御門に抜ける散策道周辺
ウメ	2月中旬~3月中旬	梅林
ヤブツバキ	2月~4月	近衛池周辺、母と子の森、白雲神社周辺

京都御苑歴史散策の集い

今年が「御苑」命名130年になることを記念し、苑内の歴史施設等をたずねる「京都御苑歴史散策の集い」を企画しました。この春苑内に整備した20箇所の歴史解説板の前には、当日、NPO法人「都草」会員が立ち、付近の歴史を説明します。

日 時 平成20年12月7日(日)午後1時~午後4時頃(雨天決行)
会 場 京都御苑内(自由参加・無料)
(解説員は12時30分から午後4時まで立会)
講 演 午後1時から20分程度 閑院宮邸跡庭園池畔にて「御苑の森と歴史ふれあいの道について」
京都御苑管理事務所長 小沢晴司

主 催 環境省京都御苑管理事務所
協 力 財団法人国民公園協会 京都御苑
NPO法人京都観光文化を考える会 都草
問 合 せ 京都市上京区下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階
NPO法人京都観光文化を考える会 都草
電話/FAX (075)451-8146

御苑ニュース発刊百号を迎え、高西元所長や星野元常務理事が創刊当時の苦労を記事に書かれています。改めて、当時の関係の方々のご尽力に敬意を表する次第です。京都御苑ニュースは、多くの市民に、御苑の空間をより楽しく、より興味をもって利用していただきたいとの願いがこめられ、それは今後も御苑からの情報発信にあたって最も重要な目的でありつづけて考えてみます。



ライトダウンの日の閑院宮邸跡講演会場でのプログラム風景

御苑ニュース百号を迎え 小沢 晴司



京都御苑ライトダウンと満月

法人霞会館大久保常務理事のご教示のもと小職での調査で、旧邸部材は府立盲啞院に払い下げられた可能性が高いことがわかってきました。

この春、職員実行により苑内に歴史解説板二十基を整備したのも実験的な取組ですが、十二月上旬、この解説板を活用し、地元市民団体の協力を得て、大規模な歴史解説行事を実施します。

その他、源氏物語千年紀委員会と連携し、今秋、御苑南部二帯を四日間にわたりライトダウンする企画を実施するなど、御苑の森の魅力や、そこから発信されるメッセージが多く市民に届くよう試行しています。今後とも多くの皆様のご理解とご支援を賜りたく、宜しくお願致します。(京都御苑 管理事務所長)